

第2回一関市水道事業経営審議会 会議録

1. 会議名 第2回一関市水道事業経営審議会

2. 開催日時 平成27年1月20日(火) 午後2時から4時まで

3. 開催場所 脇田郷浄水場会議室

4. 出席者

(1)一関市水道事業経営審議会委員 14名

阿部弘子委員、金野幸造委員、二階堂満委員、石川トシエ委員、及川豊委員、
金野健男委員、昆野洋子委員、齋藤祥三委員、鈴木美感子委員、千葉とき子委員、
三浦富久子委員、阿部節子委員、江口扶委員、千葉淳委員、

※欠席委員 2名

鈴木東委員、海野正之委員

(2)市出席者

菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長兼水道部次長、
那須野長己浄配水課長、玉澤俊一花泉支所建設水道課長、
千葉幸司大東支所建設水道課長、千葉賢千厩支所建設水道課長、
北條敏方室根支所建設水道課長、齋藤祐二川崎支所建設水道課長、
小野寺教勉藤沢支所建設水道課長、水道部各係長、業務課員

5. 審議事項

(1)水道事業ビジョンの計画期間について

(2)現『一関市水道ビジョン』に係る取り組み状況を踏まえた論点整理

(3)テーマの特出し

6. 公開、非公開の別 公開

7. 傍聴者の数 1名(報道機関)

8. 所管部署 水道部業務課

9. 会議の内容

(1)会長あいさつ

今日は第2回目の一関市水道事業ビジョンの策定に関する審議会。

私自身もまだ水道事業の現状について、十分に理解していない部分もある中ではあるが、今回は施設見学を行い、理解を深めながら、市の水道事業ビジョンを皆さんの知

恵を結集してすばらしいビジョンにしたいと思うので、ご協力をお願いします。

(2)施設見学

事務局から説明をしながら脇田郷浄水場の見学を行った。

(3)審議

①水道事業ビジョンの計画期間について

事務局から資料に沿って説明を行った。

計画期間を平成 28 年度から 37 年度の 10 年間とした。

②現『一関市水道ビジョン』に係る取り組み状況を踏まえた論点整理

事務局から資料に沿って説明を行った。

【質疑・意見等】

なし

③テーマの特出し

事務局から資料に沿って説明を行った。

【質疑・意見等】

◆委員意見

「広域化」とはどのようなことか。

◇市回答

水道事業を安定経営させるために市町村の枠組みを越えた枠組みで 1 つの事業体として水道事業を経営すること。

◆委員意見

水道事業は、電力事業と同じような経営構造であると思う。人口が減ろうが設備だけは維持しなければならない中で、一番の問題は水道施設の保守・保全になっていくと思う。一方、東日本大震災の際も地域間市町村間で協力した経過があると思うが、これからはそういった協力が一層必要になってくると思う。専門的な知識・技術が必要な水道業者も 1 つの地域資源であると思う。

そこで例えば、3つか4つの市町村で施設の保全協定を締結した上で、水道業者の育成も併せて行っていくような意味での「広域化」を推進すべきでないか。

◆委員意見

人口減少への対応、産業振興の面からも「水道未普及地域の対応」について審議のテーマとしてほしい。

◆委員意見

「施設更新需要への対応」「施設耐震化の推進」「未普及地域の対応」はいわばハード事業、それ以外の「水道料金のあり方」「広域化」「民間委託の拡大」「経営の効率化」「施設の効率化」はいわばソフト事業に分類できると思う。その中で、テーマとすべきは既に発言にあった「施設更新需要への対応」と「未普及地域の対応」である

と思う。その中でこれらを行うことによってソフト面の対応が関連してくるのではないか。

◆委員意見

水道の普及率があまりにも低い地域があるが、これは簡易水道の経営効率が悪いからだと思うが、整備の手法について、簡易水道による未普及解消ではなく、上水道を拡張する方法では対応できないのか。

◆委員意見

簡易水道事業は、単に住家が点在している地域をカバーしているから経営効率が悪いということではないのか。

◇市回答

給水人口 5,000 人以下の水道事業を簡易水道としているだけで、施設や給水方法が上水道と異なるわけではない。簡易水道は人口が少ないエリアで実施しているために、どうしても経費が割高になる傾向がある。今後、上水道と簡易水道を経営統合するため、この2つは経営の意味でも線引きはなくなる。

◆委員意見

現在の水道未普及地域は、整備経費が割高な地域が残っているという印象を受けるが実際のところはどうか。

◇市回答

それも1つの理由としてあるが、その他に水源がない地区、自家水道の水源が豊富で市の水道を必要としない地区などがある。

◆委員意見

平成28年度には、上水道と簡易水道は統合しなければならないことになっているのか。

◇市回答

国の方針として、上水道と簡易水道が統合してひとつの会計の中で経営していくというものがある。一関市としても、平成28年度に統合するという事で国と約束している。

◆委員意見

これから水道未普及地域での給水を始めるとしたら、簡易水道のような方式で給水をするということになるのか。

◇市回答

未普及地域内に水源を求め整備していく方法が現実的だとは考えているが、実際には、費用対効果を検討した上で進めることになる。

◆委員意見

普及率の低い室根地域は自家水道が多いということだと思うが、それは、水源が豊富だということではないのか。

◆委員意見

個々人で沢水を引いたり、井戸を掘ったりしているものであり、高齢化の時代を迎え、個々人での自家水道等の管理が難しくなっている。

◇市回答

室根地域は、個々人で水を確保している状況であり、まとまった水源が豊富にあるというわけではない。

◆委員意見

テーマとしては、「施設更新需要への対応」「未普及地域の対応」「維持管理」が大きなテーマになってくるのでは。

◆委員意見

「広域化」には、維持管理の問題等も入っていると思うので、「施設更新需要への対応」「未普及地域の対応」「広域化」でいいのでは。なかでも「未普及地域の対応」が一番のメインテーマになってくると思う。その上で、経営のリスク低減のため「広域化」をテーマにしてはどうか。最近介護保険や後期高齢者制度のように広いエリアで経営している部門もあるのだから、水道も「広域化」を進めるべきではないか。

◇市回答

実際に広域化を始めている事業体もある。

◆委員意見

「広域化」の話が出ているが、これは将来的にはもちろん必要なことだと思うが、相手があることなので、まずは「経営の効率化」を検討してはどうか。

◆会長

「広域化」や「経営の効率化」は、テーマを解決するための手段になってくると思うので、審議するテーマとしては、「施設更新需要への対応」「未普及地域の対応」の2つに絞られるかと思う。

◇市回答

「施設更新需要への対応」「未普及地域の対応」「経営の効率化」「広域化」など様々なご意見をいただいた中で、次回以降に向けて、テーマに関する資料を集めることにする。それに基づいて審議を深めていただくことになる。

例えば、広域化では花巻・北上・紫波が岩手中部水道企業団として、事業運営を行っているが、これを一関市中心に考えると、北側の奥州市はダムにより取水していることや、南には県境があることなど様々な条件がある。このような「広域化」などのキーワードとなるものについて、関連する資料を整理した上でお示ししたいと思う。

◆会長

テーマの特出しとして4点のテーマが挙げられた。

メインのテーマとして「施設更新需要への対応」「未普及地域の対応」があり、その解決策としての「経営の効率化」「広域化」が挙げられたため、次回以降では、この4点について審議を進めることとする。

午後4時閉会